

〔夫木和歌抄三十二〕家集寄筵戀

前中納言定家卿

あづまの、露のかりねやかや筵みゆらんきえてまきしのぶとは

〔續後撰和歌集戀十四〕入道前攝政家戀十集歌合に寄筵戀

藻壁門院但馬

一夜ねしかり初ぶしのかや筵今は涙をかさねてぞしく

〔新後拾遺和歌集十〕旅歌の中に

常磐井入道前太政大臣實氏藤原

かりねする岡のかやねのかや筵かたしき明す旅の露けさ

〔和漢三才圖會三十二〕筵略

藁ワラシ筵 處々皆織之、農家乾穀包綿、又代疊表、其用最多也、凡コサハ、モロノ蓆雙目、筵片目以爲異、

〔碩鼠漫筆三〕いなばき筵

上京或は近江邊にいなばきと呼ぶ筵あり、こは古くよりある物にや、今江戸にて云ふ餅むしろに似たりと、或京師人のふと問し事有しに、うちつけには覺悟なき事ゆゑしらぬよしを答へたりき、猪その後におもひがけず、是彼より見いでたれば書とりて遣したり、そはさして益もなき物から、實悟記春村按に、實悟は、本願寺第八世蓮如上、云野村殿ニテハ報恩講七日ノ間、廿一日ノ晩景ヨリ、縁廊下御堂ノ縁御堂へ參候、道スガラコトク、クイナバキヲシカレ候事ナリ、御堂ノ大庭ニハ、イナバキヲ繩ニテツナギテ、總ノ庭ニシカレ候、雨フリ候へバ、マキテ内ヘトラレタル事ニテ候、聽聞衆庭各イナバキノ上ニ、堪忍アリガタキ事ナリト、毎年各被申事ニテ候、中略野村殿實如上人御座候時、年記江州山家へ將軍義種御没落之時、春村按に、永正十年三月十八日に係る、山家は、甲賀山中也、又義種は諸記義種に作、都へ御歸洛之時、按に五月三日なり伊勢貞宗江州へ御迎ニ參候之時、山科葬所通候トテ、御坊へ被申入候事ハ、此葬所ヲ御所御通候ベキ由申テ、葬所如何候間、無常堂ノ跡前ソトラツ、マセラレバ可然由、貞宗被申入シカバ、安キ事、報恩講大庭ニシカル、イナバキヲモタセ、打カケクツ、マ